

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 NPO 法人 可児市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

可児市、及び近隣地域の在住外国人が地域住民として円滑に生活するためには、日本語習得は欠くことができない。そこで、日本語が堪能な長期在住外国人が同胞の日本語学習を支援し、外国人同士が自助努力しながら地域社会で自立共生していく一助を担うことが本事業の趣旨である。そのために、日本語が堪能な外国人に向けて、日本語学習の支援ができるようにする日本語支援者養成講座を開講する。

本講座では、外国人自身の日本語習得経験と、母語を媒介語に日本語が教えられるという強みを十分生かしたアプローチで日本語を体系的に学び、日本語の具体的な教え方を学ぶ。

- ①基礎コース：日本語の仕組みと母語の違いを学ぶ
- ②実践コース：日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）の具体的な教え方を学ぶ

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月1日 13:00～ ～15:00	可児市多 文化共生 センター フレビア (研修室)	各務・小 島・島袋・ 清水・中 村・宮谷 (6)	・企画内容の説明と取り組みについて ・日程と項目担当者の確認 ・募集方法・内容他	・地域の外国人の現況 日系ブラジル人 4300 人、フィリピン 1600 人他 ・定住者の自立支援に役立 てる実践日本語学習支 援者の養成講座にする ・基礎コース:7/18～12 回 ・実践コース:11/14～12 回 ・各コースとも 15 人程度
6月29日 16:00～ ～17:00	可児市多 文化共生 センター フレビア (研修室)	各務・小 島・島袋・ 清水・中 村・宮谷 (6)	・募集・応募状況について ・日程・プログラム・担当 の確認 ①日本語とは、②日本 語学習における文 法、③日本語の発音、 ⑥⑦話すこと、⑧⑨ 読むことは清水、	・多言語情報誌・各種研修 会参加者に広報した結 果 30 名以上の応募者 か？ ・外国人は昨年比 1500 人減少、残留者は定住(永 住)志向で仕事探しが 多い

			<p>④ ⑤文字・語彙は宮谷、⑪異文化コミュニケーションは小島、日本語ポラは各務が担当。</p> <p>・その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者の日本語レベルは高い ・基礎コースでは日本語の特徴や表記と、母語との違いや基本的な教え方の指導 ・実践コースでは日本語の文法や社会生活での会話を中心にした指導法について指導
11月8日 10:00～ ～11:00	可児市多文化共生センター フレビア (多目的室)	各務・小島・島袋・清水・中村 (5)	<p>①基礎コースを終えて(評価と反省) 参加者：30人</p> <p>②後期(実践コース)の指導について</p> <p>③その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は想像以上に日本語レベルは高かった ・受講者の中にはすでに積極的に活動を始めている ・後半は子どもの教育や行事・仕事の関係で欠席者が増えた ・日本語習得過程を十分に引き出せなかった。 ・実践コースは基礎コースで学んだことを、母語による介在語が使用できること、日本語習得過程を振り返ることで、学習者の立場が解る事の強みを生かして指導する方法について演習したい ・母語漬けにならないようにすることも必要 ・講座の内容と参加者のニーズの落差
2月27日 13:00～ ～15:00	可児市多文化共生センター フレビア (研修室)	各務・小島・島袋・清水・中村 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・実践コースの振り返り 後期参加者：17人 ・来期の申請内容について 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期申込者は30人近くあったが、実際に参加できたのは15人、仕事の都合と、文科省の事業展開で繁忙となった等 ・ブラジル人グループでは受講者の人たちでハッピーアワー(日本語会話サロン)を立ち上げた事は評価できる。 ・来期は地域に暮らす多様な外国人のための日本語指導者が求められるので、基本に立ち返って、多様な教え方に展開

				<p>できるような形での日本語指導法を学習者と協働で作っていき講座で考える。</p>
--	--	--	--	--

【写真】（会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。）



第4回 運営委員会 実践コースの振り返り

3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名：日系外国人のための日本語学習支援要請講座
- (2) 養成講座の目標：日系人自身が自らの日本語習得経験を活かし、母語を媒介語に同胞に日本語を教える支援活動に参加する
- (3) 受講者の総数 47 人
- (4) 開催時間数（回数） 48時間 （ 24回 ）
- (5) 参加対象者の要件：平仮名、カタカナが読み書きが出来て、簡単な日本語での日常会話が出来る在住日系外国人
- (6) 受講者の募集方法：協会が発行している2000部の多言語情報誌(可児市内、人材派遣会社、コンビニ・外国人集合住宅等に配布している)に募集案内掲載
ブラジル人・フィリピン人コミュニティーに案内するとともに、共生センターでの各種講座研修会参加者に機会あるごとにPR、

(7) 研修会場：可児市多文化共生センター「フレビア」 研修室

(8) 使用した教材・リソース

・自作教材

参考文献：『話すことを教える』国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第6巻

『聞くことを教える』国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第5巻

『読むことを教える』国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第7巻

『みんなの日本語Ⅰ』スリーエーネットワーク編

『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』 鹿島央著

スリーエーネットワーク

『日本語の音声入門解説と演習』猪塚元、猪塚恵美子著

バベルプレス

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月18日 10:00～ 12:00	【日本語とは】 日本語の特色について (母語と比べて何が違うか) ・外国人(ブラジル人) にとって、日本語学習に おいて何が難しいかにつ いて指導	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	26名
7月25日 10:00～ 12:00	【日本語学習における 文法】 ・日本語の文法 (日本 語学習において文法は 必要か?) ・外国人にとって難しいと 思われる文法事項 ・外国人が間違いやすい こと、助詞の整理(提供 の仕方)	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	27名
8月1日 10:00～ 12:00	【日本語の発音】 ・日本語がうまく発音で きない原因 ・拍・特殊拍・アクセン ト・リズム・イントネー ション	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	25名
8月8日 10:00～ 12:00	【文字・語彙を教える】 ・ひらがな、カタカナ、 漢字の使われ方、指導の 留意点 ・どうやって覚えればよ いか、ストラテジーを考 える	愛知県立大外国語学部 准教授 宮谷 敦子	28名
8月22日 10:00～ 12:00	【文字・語彙を教える】 ・言葉の意味をどのよう に説明すればよいか、そ のポイント ・母語を生かしたボキャ ブラリービルディング の方法	愛知県立大外国語学部 准教授 宮谷敦子	22名
8月29日 10:00～ 12:00	【話すことを教える】 「話す」とは、「話すプ ロセス」と「コミュニケ ーションを成り立たせ ている4つの要素」を知 り、実際に話せるよう になるための練習はど ういう練習かを考える。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	25名
9月5日	【話すことを教える】 ・「コミュニケーション」 に必要な能力	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師	24名

10:00～ 12:00	・話す力を育てるための具体的な活動・教科書を使ったスタイル ・「おしゃべり」しながら課題達成の表現に持っていくスタイルの具体的な方法、質問の投げかけ方	清水 恵美	
9月12日 10:00～ 12:00	【読むことを教える】 ・「読む」とは、日常生活でよく「読む」ものについてどのようなものをどんなふう読んでいるかを考える。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	23名
9月26日 10:00～ 12:00	【読むことを教える】 ・「読む」力を育てるためのストラテジーと、そのストラテジーをのばす具体的な活動方法を知る。教材を使って質問を考える。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	14名
10月3日 10:00～ 12:00	【日本人の言語表現】 ・異文化コミュニケーションを理解するため個人(参加者)の体験を振りかえりながらことの難しさを感じ共有した。 ・そこから私たちができることをワークショップ ^① をしながら考えた	愛知淑徳大学コミュニティ・コ ラボレーションセンター講師 小島 祥美	16名
10月17日 10:00～ 12:00	【日本人の言語表現】 ・日本人特有の言いまわしの中で外国人に分かりにくい表現は何か日本語のあいまい表現を理解して、トラブルが生じたことがあったかを出し合いそれらの表現について知る。	愛知県立大外国語学部 准教授 宮谷 敦子	16名
10月24日 10:00～ 12:00	【日本語ボランティアについて】(まとめと振り返り) ・自己のミッションについて ボランティアとは ・可児市国際交流協会の外国人のための日本語教育の取り組みと学びの場について。 ・修了証書授与(24人)授与	NPO 法人国際交流協会理事・事務局長 各務 眞弓	12名

11月14日 10:00~ 12:00	【日本語の特色】 ・日本語の特色をいろいろな点から探り、自分たちの国のことばとどこがどう違うのか ・その中から違いが大きい点を4つあげ、母国語で解りやすく伝える方法を考える。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	15名
11月28日 10:00~ 12:00	【日本語教育文法】 ・文法の何をどうやって教えたらいいか、どうやって整理して提示したらいいか ・教え方のポイント。母語にはなくて日本語だけにある表現、文型をとりあげ、形と意味が母語とどうちがうか知る。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	14名
12月5日 10:00~ 12:00	【日本語の発音】 ・日本語らしく聞こえるためには、イントネーション、アクセント、リズムがうまくできることが条件 ・ではどうしたらいいか。外国人にとって難しい特殊音の練習はどうしたらよいか。それぞれの機能としくみと練習方法を知る。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	11名
12月12日 10:00~ 12:00	【文字指導】 ・日本語の読み物で使われている「ひらがな」「かたかな」「漢字」「ローマ字」「数字」のそれぞれの役割とその指導について効果的な練習方法を知る。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	12名
12月19日 10:00~ 12:00	【会話指導】 ・会話指導のアプローチの方法をシラバスごとで考える。(構造、場面、機能、話題)で会話を系統だてて作り、練習するということを知りそれぞれの長所・短所を考える。 ・実際の会話練習のモデルを分析する。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	7名
1月16日 10:00~ 12:00	【会話指導】 ・「会話」練習の手順を具体的に知る。 ・「会話」練習で確認し	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	7名

	なければならぬ事項を考え、それをどのような方法で確認すればいいか、母語が使える、自分たちの日本語習得方法を生かして、どんな練習をしたらいいか考えながら方法を知る。		
1月23日 10:00~ 12:00	【生活日本語野指導Ⅰ】 生活に密着した場面での日本語を学習者が話したい、聞きたい内容なるべくたくさん話せるような教室活動はどうすればよいか考える。 今可児日本語教室で実践している活動を提示し、教師ではなく会話の仲間として、どんな問いかけをして話を広げていったらいいかを考える。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	12名
1月30日 10:00~ 12:00	【生活日本語野指導Ⅱ】 生活するのに必要な日本語のうちどんな語彙と表現をどうやって取り上げたらよいか。場面とその下位分類によってカテゴリーを考えるリストを作る。基本文型を知る。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	7名
2月6日 10:00~ 12:00	【読解指導Ⅰ】 「よむもの」によって「読み方がちがう」は洗指導法も違う。目的別の二つの読み方の指導法を知る。スキミング、スキミング、精読の手順、練習例を知る。音読の効用とその方法を学ぶ。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	10名
2月13日 10:00~ 12:00	【読解指導Ⅱ】 ・実際の「読みもの」(スキミング、スキミング、精読用)を使って、それらを理解するためのポイントを考える。 ・文章のパターン・接続詞・指示語・語彙、よくつかわれる表現を知り、内容理解のための設問を考える。	中日本自動車短大非常勤講師 名古屋教育学院専任講師 清水 恵美	10名
2月20日 10:00~	【異文化社会とコミュニケーション】 ・同じ地域住民として暮らす“外国人住民”であ	愛知淑徳大学コミュニティ・コ ラボレーションセンター講師	12名

12:00	るが、日本社会からは“外国人”と同じカテゴリーから考えられてしまっている。個々人の“違い”を感じ、実感することから異文化理解を考える。手法としてフォトストーリーを用い、自分をテーマにした紙芝居作りを行う。	小島 祥美	
2月27日 10:00～ 12:00	外国人の子どもの教育環境 ・在住外国人の子どもの置かれている現状 ・不就学にならないために ・学習言語の理解力、教科指導方法の違いへの対応 ・就学義務とは、就学年齢とは、学校とは、岐阜県内の学校についてや、算数の計算方法などをワークシートを使って学ぶ 修了証書 名に授与	愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター講師 小島 祥美	6名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

全員に統計的アンケートを実施できなかったことを反省する

前期参加者で、参加の目的と結果、これからについて13名のアンケート結果

- ・日本語の特徴がよく理解できた
- ・この講座が外国人のために大変必要なことがわかりました
- ・いっぱい言葉をならいましたが、でもひとりではしんばいです
- ・多くのブラジル人から日本語をおしえてくださいといわれていて手伝いたいと思っていましたが、どのように教えてよいかわかりませんでした
- ・この講座を受けて、今度は日本人にポルトガル語を教えることに役立てたいです
- ・もっと日本語を教える機会を作りたいです
- ・以前から日本語を教えていたが、やり方が全く違っていた。研修を受けて少し自信がついた
- ・人のために役立つことが何かできるようになりたいと思い参加しました
- ・自分の日本語で人に教えることができるのかどうか、自分がくろうした事にくろうしないように他人に日本語と文化を教えたい。やっぱり日本語をもっとべんきょうする事が大切。日本語を教えながらにほんごのべんきょうをしていきたいです
- ・ブラジルに帰ってから日本で学んだこと、講座で学んだ事を仕事に生かしたいとい

う気持ちで参加しました。今は仕事のためだけでなくボランティアとしてやりたい気持ちがあります。日本でくらすこまっている外国人のためにできることを考えはじめました。そしてボランティアけいけんを深めたいです

(最終回参加者のアンケート結果) 回収 5 名

- ・ 研修内容について : 大変良い: 2、 良い: 2 普通: 1
- ・ 講義の構成について: 大変良い: 2、 良い: 3
- ・ 時期や時間配分について 大変良い: 3、 良い: 2
- ・ 研修に参加した理由:
 - 日本語をもっと学びたい・・・ 3
 - 自分の勉強のため・・・ 3
 - 友達に言われてなんとなく・・・ 1
 - 母国の人に日本語を教えたい・・・ 3
- ・ 今回の研修で得たものは?
 - 日本語をどのようにしたらうまく教えられるかのヒントを得た
 - ブラジル人に日本語をどう教えたらよいかを学びました
 - 日本語が上手になるための方法
 - 文法
 - 日本語の文法、それと日本語の違いに気づかせたこと
- ・ 今回の研修は何で知りましたか?
 - 主催団体の広報・チラシ・・・ 3、
 - 友人知人から聞いた・・・ 1
 - 行政の広報・・・ 1
- ・ 今後地域の日本語支援をするためにどのような研修を希望しますか?
 - 日本語に関すること (文法・漢字・敬語・文化など)・・・ 3
 - 在住外国人の事情に関すること・・・ 2
 - 異文化理解・・・ 1
- ・ 研修を終えての感想
 - とてもよかったです、これから日本の文化について学びたい
 - とても楽しかった
 - 内容が良かった、いろいろな人と出会うきっかけがありよかった
 - 沢山覚えることができました、思い出しながらこれから多くの人に日本語をおしえたいです
 - 今日終わりだと思うとちょっぴりさみしいです。もっと勉強したい気持ちです、長い間お世話になりました。今後もよろしく願います

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・数名の参加者はコミュニティーに呼び掛けて活動を開始している。
- ・その一つは「ハッピーアワー」（日本語サロン）として毎日夜日本語の学習実施中
- ・また、共生センター内のロビーにてフリー参加自習日本語学習等も実施している
- ・日本語を教える機会が増えたことは一つの大きな成果
- ・これからはもっと生活密着（事故・クレーム・契約・手続き等）の日本語学習も用意する必要がある

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・子どもの就学支援で文科省の「定住外国人の子どもの就学支援事業」を申請中
- ・就学前の子どもたちへの進路指導教室（2月～3月 20回）
- ・就学年齢を越えた子どもの進路指導教室（毎回5時間週4日、45週）
- ・就学児童生徒の保護者のための日本語指導講座（年間45回）
- ・仕事に役立つ日本語教室（物づくり・介護・福祉・サービス業現場等4講座）80回
- ・在住外国人コミュニティー連携会議の開催し、地域市民活動への参加協力支援
- ・日本での生活者としての学び講座（地域を知る、文化を作る、食と健康等）の開催
- ・弁護士・行政書士・社労士の協力を得て法律・生活相談会を年8回開催
- ・日本語昼間教室（日曜日2時間）・夜間教室（土曜日90分）継続開催
- ・近隣地区の外国人支援団体との連携交流会（年間数回開催計画）

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・文科省の「定住外国人の子どもの就学支援」事業、ブラジル人子弟交流支援事業、岐阜県市町村国際交流協会等特別支援事業、地域国際化協会先導的施策事業等の参加者と課題共有化していく。

② 研修後の人材活用

- ・仕事日本語講座、日本語昼間教室、夜間教室等でもボランティア参加できるようにしていく。

(12) 今後の課題

- ・多文化共生支援事業を具体的に企画。運営を展開していくコーディネーターの育成
- ・在住外国人の就労環境の先行き不透明
- ・日本語学習の必要性の喚起